

大阪北部地震：予期せぬ災害

昨日私たちがいつものように、登校している時間帯の7時58分頃、大阪北部を中心に震度6弱の地震に襲われました。京都も震度5強、滋賀では5弱。現在分っている死亡は4人、負傷者330人、避難者1500人。断水が続いている地域や、ガスが使用できない地域、家屋内は物が散乱し後片付けを気にしながらも、私たちも含めて余震を心配する人びとが大勢います。

今回の予期せぬ地震を体験した私たちは、改めて東日本や、熊本の地震災害が人事ではないことを痛感しました。被災されたクラスメートのご家族や、教職員の方々をはじめ、今、悲しみにくれている方々、困っておられる方々に対して心を寄せて、私たちにできることを考え、行動に移していきたいと思えます。その際は、私たちの行動提起にご協力をお願いします。

私たちに今、何ができるか！

今回の被災地には、生徒や教職員が暮らしているだけでなく、平安女学院大学と附属幼稚園もあります。大学のキャンパスでは、研究室や図書館の書架から、書籍が落ち散乱しましたが、人的被害は出ていません。幼稚園では、子どもたちのお道具箱が散らかり、トイレのふたや、照明器具の破損などがありましたが、高槻市内や茨城から通園する104人の園児全員は無事でしたが、「みんな怖がっているので、今後のケアを考えています。」と幼稚園の先生はお話くださいました。

中高の生徒・教職員のお宅では、屋根瓦が落ちたり、食器棚の中のものが壊れ、散乱した、断水が続く、ガスがきてない家もあるとのことでした。

災害は身近に起きる

私たちは委員会では、2018年度は毎月11日以外に「防災のためのミーティング」を実施し、「いざというときにどう行動するか」を話し合っていたところです。この間も、学校から自宅までの帰宅方法を考えていた矢先の地震でした。昨日の経験を振り返り、更に「命を守る」ための防災対策を考え、行動します。

みなさんも、災害は身近にあると感じたと思いますので、一緒に活動していきませんか。